

## 課題になっている行動 (気になる行動)

過去に経験した  
嫌なことを思い出し  
混乱する

体験した  
過去の記憶が  
くっきり・はっきり  
いま起っている  
ように感じます



監修・文 水野敦之 絵: 宗貞由貴子

環境・状況の要因	本人の特性	本人の経験や気づきの影響
<input type="checkbox"/> 様々な状況の変化  <b>■ 影響を与える刺激や情報 これまで経験したことがある</b>  <b>■ 必要な支援がない 生活全般の時間、空間の境界がない 「終わり」「次に」の見通しが 提示されていない 生活内容が充実していない</b>  <input type="checkbox"/> その他	<b>■ 全体よりも細部に注目する特性：過去の記憶、自分のイメージから切り替えることが難しい</b>  (■ 時間の整理統合の困難さ：今と過去との境界が無い)  <b>■ 記憶の特性：長期記憶の特性で、一度経験したことを鮮明に(写真・映像に撮ったように)記憶している。</b>	<input type="checkbox"/> 習慣になっているものがある  <b>■ 自分流の気づき・考え方をもつ 今経験しているように過去の記憶をイメージしている</b>  <input type="checkbox"/> 過去に経験したこと学んだこと  <b>■ 過去に経験したことにより恐怖や嫌悪感をもっていること 過去に記憶した嫌な経験がある</b>
ー 行動前の状況※ 過去の嫌な経験 その時の状況		ー 行動後の状況・結果※ 過去の記憶が消えない、消せない 自分が今経験している恐怖を周囲が理解できない 癇癪を止めらる、「忘れなさい」と強制される

活用できる他の資源	活用できる本人のスキル	活用できる本人の気づき
スケジュールを活用している	絵、写真の理解	ラインや仕切りで境界イメージをもてる

支援計画 ※支援の具体的な計画は自立課題シートで整理する方法もあります		
環境を変える部分は？	本人の特性にあわせた支援は？	本人に伝える・教える部分は？
・生活全般で時間、空間の境界を明確にする。 ・嫌な記憶を思い出すきっかけになっている要因を無くす又は軽減させる。	・生活内容＝生活シナリオの充実させる。 ・終わりと、「まずは〇〇、それが終わったら次は〇〇」の見通しを伝える。	・成功体験を重視する ・癇癪時は、次の活動への促しを基本とする。

### 解説と支援の方向性について

自閉症の人は、一度経験したことを記憶を鮮明にまるで写真や録画のように記憶されると言われています。様々な記憶、細部まで覚えているような人もいて、周囲が驚くこともあります。また、一度経験した嫌な記憶を消すことができずにフラッシュバックを起こされるケースもあります。失敗した内容を繰り返すようなこともあります。成功体験を重視してアプローチも重要です。修正して学ぶことや、手探り(試行錯誤)の幅は個別化する必要があります。